

活動名	団体名 Seeds(シーズ)
子どもたちと進める里山復活大作戦	地 域 山口県柳井市
	代 表 者 会長 西本 利治
	支援金額 21万円
活動概要	
<p>山林と田地を借り受け、地域内外からボランティアを募り、子どもたちと一緒に荒廃した山林の整備やビオトープの造営を行う。その後、植林や子どもたちの遊び場つくりに着手し、5ヶ年計画で植物や昆虫の野外観察、採集ができる里山を再生する。現在『お山の学校』と命名された里山再生事業地に対する地域の関心を高め交流を促進するため、「里山探検隊」等のイベント事業を実施する。</p>	
<p>◆実施時期 2010年4月1日～2011年3月31日 「お山の学校」・「旧大里小学校」山口県 柳井市 日積(大里)</p>	
<p>◆参加人数 タケノコ交流会(お山の学校) 45名 キノコ交流会(お山の学校) 30名 里山探検隊(旧大里小) 120名 風ん子どんど(旧大里小) 180名 親子木工教室(旧大里小) 52名 参加総人員 427名</p>	



「里山探検隊」釣竿できたぞ！



「里山探検隊」ファイヤーナイトに歓声



「里山探検隊」廊下に並んで朝食だ



「風ん子どんど」大松明燃ゆ

◆実施に伴う効果

農山村と都市の交流、地域の異世代間の交流等を推進した多様な事業に年間で427名の参加者・協力者を得て、地域の自然や文化を見つめ直す今回の試みに対する地域の理解はさらに深まった。

また里山再生事業の柱である『お山の学校』の認知度も、開催したイベントへの参加者・協力者、そして新聞などのマスコミにもたびたび取りあげられ、それと共に地域内における信用度や親近感も増していった。

助成金の多くは、広報活動に必要な印刷物の財源として活用されたが、助成の効果は、私たちの活動に対して地域の協力と支援がどのくらい得られたかに示されている。しかしそれは、各種イベントの動員数のみで測れるものでは決してない。そこに集った人々が抱くその場に居合わせたことの満足感の総体が、助成の効果である。

◆苦労した点

ボランティアでできることには当然限界があるが、ボランティアでなければできないことも当然多い。ボランティアだから無報酬を前提にして誰にでも何でもお願ひできるし、それに応えてくれる人は案外多いものだ。こうして私たちは9年間、何とかここまで同じ旗印の下に活動を継続することができた。その中で一番の苦労は、逆にボランティアだから活動すべき日に皆用事が出来て集まることができないのではないかという不安を常に抱いていなくてはならないことである。

◆今後の課題・発展の方向性

同じメンバーで会を維持していれば当然皆一様に年齢を重ね、職業上の立場も変動し、余暇の取り方も条件も変わってくる。組織として活動してゆくことは人的な新陳代謝が不可欠だが、ボランティア集団の多くがこの問題に直面し、世代交代できないまま滅んでゆく。

そのことは発足当初、充分意識して船出したつもりだ。だから私たちの組織は幾世代かにまたがり、男女比にも心を碎き、途上でいくらかの代謝もあった。しかし、家族との団欒や家の仕事を少々後回しにしながら、人生の限られた時間を費やす訳だから、その無償行為に何をすべきか何をしたいかの一致がない限り、組織は簡単に崩れてしまう。人を留める理由も価値も何も誰も持ち合せてはいない。

これが組織化したボランティア集団の実態である。

私たちは限りなく自由だが、その分限りなくもろい。言葉にこそしないが、そんな清々しさとはかなさの上に私たちは立っている。

さて、日積地区では平成25年度オープンを目途に『都市農村交流施設』の構想が進んでいる。この施設建設に伴って、私たちが拠点としてきた「旧大里小」の取り壊しが決まった。もちろんこの構想が持ち上がったきっかけの一つに私たちの活動があったことは確かだ。しかし活動の真の意義は理解されず、私たちが望んだ形とは異なる形で拠点は姿を変えようとしている。

なんと悲しい現実だろう。

組織は今、その存在意義の再確認を突き付けられている。旗印(Seeds(シーズ))に再び皆の思いが込められるかどうか、これから正念場を迎える。

◆活動を終えての感想・意見等

1年間応援ありがとうございました。

いただいた助成金はSeeds(シーズ)の思いを込め、有効に使わせてもらいました。

活動の主要行事をご覧いただこうと何度もお誘いしましたが、遠方でもありご都合がつかず、一緒にできなかつたことが残念です。来年度もう一度助成の機会を頂いたあつきには、是非私たちの活動現場をご視察ください。